

## 4 - 10 三河における地殻変動観測 (1974 ~ 1979)

Crustal Strain Observations at Mikawa(1974~1979) (Nagoya Univ.)

名古屋大学理学部

Mikawa Crustal Movement Observatory, School of Science, Nagoya University

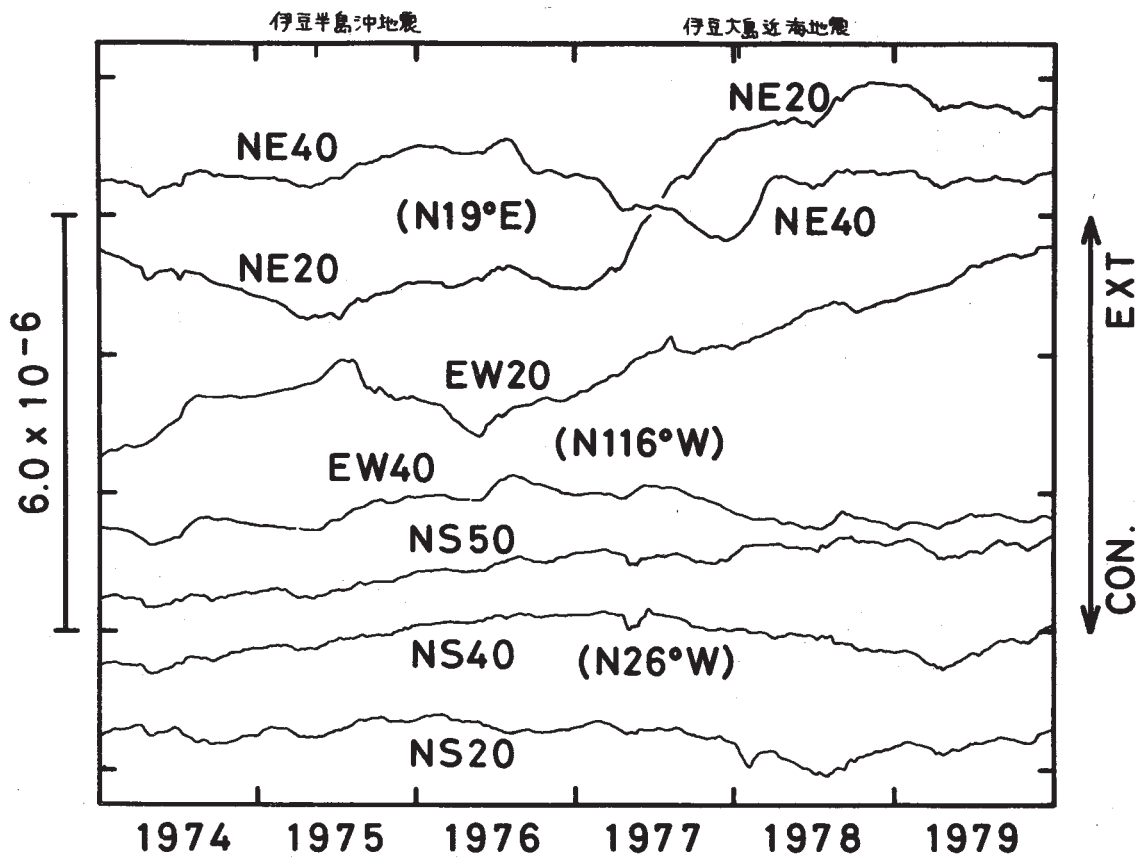
三河地殻変動観測所では地殻変動の連続観測を1973年に開始した。1978年までの結果は前報で報告した。<sup>1)</sup>三河地殻変動観測所の場合、100 mmを越えるような降雨時にその影響で $2.0 \times 10^{-7}$ 程度の伸縮変化が観測されることがある。この降雨後の伸縮変化は3段のタンクモデルを使用することで90%程度まで除去できるようになった。Fig. 1は1974年から1979年までの6年間の伸縮変化から降雨の影響を除去したものである。すでに前報で報告したが、3成分とも20mの伸縮変化と40m(または50m)の伸縮変化とはあまり似ていない。しかも、逆位相の変化をしている時期があり、観測坑付近は局所的な複雑な変形をしていると考えざるを得ない。

三河地殻変動観測所から120 km程度離れた地点に伊豆半島沖地震と伊豆大島近海地震が発生した。これらの地震発生前(数日前)には特別な前兆的な変化は見出されなかったが、NE(N19°E)成分の長周期の変化にはあるいはこれらの変化と関係する部分があるのかも知れない。しかし、EW20(N116°Wで20mの位置の検出部)の変化のように地震とは全く関係しない変化もあり、長い期間の資料が集まらなければ詳しいことはわからない。

三河地殻変動観測所の南方5kmの地点では1977年から光波測距儀(6BL)によって辺長測量をつづけている<sup>2)</sup>が、この辺長のひずみ変化の様子と地殻変動の連続観測とは互にほとんど関係がない。

### 参 考 文 献

- 1) 名古屋大学理学部三河地殻変動観測所:三河における地殻変動観測, 連絡会報, 21(1979), 110 - 111.
- 2) 名古屋大学理学部地震予知観測地域センター: 光波測量による東海地域の辺長測量, 連絡会報, 24(1980), 169 - 171.



第1図 三河における伸縮変化

Fig. 1 Variation of the extensometer readings at Mikawa.